



道徳通信 NO. 6

平成27年9月25日発行
道徳教育推進委員会

LHRでの道徳授業の実施 (その2)

9月17日、教育庁指導課の高等学校訪問が実施され、6限のLHRでの道徳の授業についても、指導主事の先生方に参観していただきました。

第1学年の各クラスでは、先週に引き続いての実施となり、読み物教材、映像教材と各クラスで工夫を凝らした授業が展開されました。授業内容は以下のとおりです。

M1（電子機械科）

「ピカピカのトイレ」（「明日への扉Ⅱ」）

動きのあるメリハリのきいた授業でした。



生徒が具体的にイメージできるような問いかけや例を挙げて授業を進めていました。

教材の内容については、教員が音読することで、生徒も内容に集中できていたように思います。生徒に黙読させると、その後のワークシートへの記入等でどうしても個人差が出てしまいがちですが、教員の音読により、そのあたりの問題も解消されると感じました。

ワークシートへの記入については、周りの人と話をせずに、自分の考えをまとめるよう指示がなされていました。話し合いの前提としてこの点は、生徒に確認することは大事です。

E1（電気科）

「支える人になりたい」（「映像教材(H25)」）



映像を見せるまでの部分では、アットホームな雰囲気で開催されており、的確な指示に加えて、

丁寧な机間巡視と指導がなされていました。

ビデオ視聴後も生徒は熱心に取り組んでいました。

I1（情報技術科）

「支える人になりたい」（「映像教材(H25)」）



E1と同じ教材での授業でした。生徒たちは熱心に取り組んでいました。

映像教材での展開においては、全体を通して視聴させてからワークシートに取り組みせると、内容を思い出しながらの作業となるため、生徒の考えが十分に引き出せない懸念があります。

主人公の心の動きがあった場面で、映像を止めてワークシートに取り組みせ、次の場面の留意点を示して、続きの映像を見せるというルーティンで進める等の工夫が必要だと感じました。



（「支える人になりたい」から）

P1（建設科）

「建設現場へGO!」

（「国土交通省作成映像教材」）



国土交通省の作成した映像教材を使った授業でした。

生徒が建設現場に対して抱いているイメージと映像教材視聴後の気持ちを付箋に書かせ、KJ法等の手法を使い画用紙にグループごとにまとめさせていました。

生徒は真面目に取り組んでいました。

「支える人になりたい」の紹介

今回、2クラスで取り上げた映像教材「支える人になりたい」について紹介します。

主人公・桜は商店街で代々小さな靴屋を営む両親と暮らしています。高校1年生の桜は将来について、これといった展望もなく日々を過ごしていましたが、友人がカメラマンという具体的な夢を抱いていることを知ります。

また、担任との会話を通して、「働くこと」を漠然と意識し始めます。

さまざまな人との出会いを通じて仕事を通して誰かの役に立つことの尊さを知ります。

実施したクラスの皆さんは、実際に授業を通じて、どんな感想を持ちましたか？



道徳教育の留意点について

各校において道徳教育を進める上での留意すべき点については、「道徳教育推進のための基本的方針」で次のように提示されています。

2 重点化の視点

『いのち』のつながりと輝き」という主題を実現するため、以下の4つの視点から教育内容の重点化を図る。

(1) すばらしい「いのち」

全ての生命を尊重し、父母や祖父母への感謝の気持ちを持ち、生命を育む自然や地球を大切にし、共に守っていく態度を養う。

(2) かけがえのない自分

自分のよさに気づき、よりよい生き方を探求し、自己実現を目指す態度を養う。

(3) 支えあう喜び

家族や自分の周りにいる人たちへの支えに感謝し、豊かな人間関係を築き、社会に貢献する態度を養う。

(4) 未来へつながる「いのち」

郷土や国の伝統・文化を理解し、先人の生き方に学び、よりよい未来を築こうとする態度を養う。

少なくとも、ひとつの視点に偏ることなく、すべての視点に係る内容を満遍なく扱うことが求められます。

また、読み物教材、映像教材を織り交ぜて様々な題材に触れさせることも必要です。

第1学年の先生方におかれましては、これまでの実施内容を確認して、11月のLHRでは、これまでに扱っていない視点の内容に係る授業の実施をお願いします。

（文責 崎山）